

加藤 誠

棚田 隆

上 取

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

10/20 11:20 15分

N 25A 742

日時：平成 23 年 10 月 20 日 (木) 11:00~11:15

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 20 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

— 官口 通 53 09

配布資料：なし

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 原子炉建屋の地下の溜まり水に凝固剤を入れ、外部への漏洩を防止するという報道があったが、事実関係は。

A. 現在、雨水や地下水が原子炉建屋へ 200~500 トン/日程度流入しており、循環注水により、タービン建屋内の水位を O.P.3,000 で維持するように管理している。最終的には余剰水を発生させないために、原子炉建屋とタービン建屋を切り離し、原子炉建屋と水処理装置のみで循環させる方法を検討している。現在、原子炉建屋からタービン建屋側に溜まり水が流入しているため、止水するためにコンクリートやグラウト等で凝固する、という工事を検討しているところだが、詳細な完了時期については、現時点では未定。

Q. 止水工事は原子炉建屋とタービン建屋の溜まり水の流入を断つためのもので、壁のひびからの地下水の流入を避けるためのものではないという事か。

A. その通り。タービン建屋側の地下水については、サブドレンポンプの復旧により対応したいと思っている。

Q. 原子炉建屋とタービン建屋の地下の溜まり水を全て固めてしまう予定なのか。

A. そうではなく、溜まり水は膨大であるため、固めるのは困難であり、まずはたまり水が発生する範囲をより小さくしたいと思っている。

Q. 原子炉建屋と水処理装置のみで循環させるためには、原子炉建屋の地下に新たに水を吸い上げるポンプ等を設置するのか。

A. その通り。原子炉建屋とタービン建屋の切り離しが完了した後、装置を設置したいと考えている。

Q. タービン建屋の地下を凝固剤によって止水すれば、タービン建屋から高濃度の汚染水が漏洩する事は無いという事か。

A. その通り。地下水の流入によりタービン建屋内の溜まり水の濃度が下がると予想される。また、サブドレンのポンプを復旧する事で水位をコントロールできるようになれば、地下水の流入も少なくなると思う。

Q. 本日午後の福島県議会において、福島県内の原子力発電所を全て廃炉にするという案が採択されるようだが、東京電力としての見解を示していただきたい。

A. 福島第一原子力発電所の1～4号機については既に廃炉にする事を決定している。ただし、福島第一原子力発電所5、6号機と福島第二原子力発電所については、現時点で廃炉にする計画はなく、まずは事故の収束に全力を尽くす事を第一とし、一刻も早く正常な状態に復旧したいと思っている。

Q. 地元の県議会において採択されるという重大な事であるが、どう思うか。

A. 地元の方々のご意向については、真摯に受け止め、自治体や県議会と良く相談してまいりたい。

以上